

会津若松の観光力と
会津大学の IT・データサイエンス力を
活かした研修プログラム

横浜市立大学・国際商学部
和田ゼミ

指導教員 和田淳一郎

代表者 高根澤士道

発表者 横石龍一

小山葵

半澤勇耀

目次

【梗概】	3
【本文】	4
第一章 交流人口の増加から関係人口の増加を目指して	4
第二章 提案プログラムの内容	6
～会津若松の観光力と会津大学の IT・データサイエンス力を活かした研修プログラム	6
第三章 会津若松市側の強みと利点	12
第四章 研修受講側企業の利点	14
まとめ	16

【梗概】

会津若松市は若者の人口減少という大きな問題を抱えている。この問題は地域経済の不活性化を招き、社会生活の劣化を引き起こす。地域経済の不活性化、社会生活の劣化は、さらなる人口流出を引き起こす。若者の人口減少は直ちに対処しなければならない。しかし、この問題は会津若松市だけではなく日本全体が抱えている宿痾である。そのため会津若松市だけが若者の定住人口増加を図るのは不可能であろう。

そこで我々は会津若松に深く関わる関係人口の増加を目指す。そして、関係人口を増加させるために、会津若松市が中心となって企画する、企業向けの IT・研修プログラムを提案する。会津若松市には豊かな自然はもちろん、鶴ヶ城などの歴史的建造物や温泉街、美味しい日本酒、料理、そして何よりも、稽古堂、日新館に始まる教育・修練を大事にする伝統が揃っている。この観光地としての魅力、教育を大事にする伝統、そして新たに加わった、IT、データサイエンスに秀でた会津大学を抱えている点を活かして、IT・データサイエンス研修プログラムを企画するのである。

この企業向けの研修プログラムでは、優秀な会津大学の学生に講師を務めてもらうことにより、首都圏で行われる営利企業による研修よりは低廉な価格で IT・データサイエンスの研修を行い、夜には会津若松が誇る日本酒や料理を振る舞い、そして温泉に浸かって疲れを癒してもらう。教育・修練を大事にする自然豊かな会津の街で、信頼性の高い IT・データサイエンス研修と、美味しい日本酒、料理を提供し、会津若松を第二のふるさと、第二の学都にしてみようというプログラムである。

この研修プログラムには、研修を採用する企業、会津大学学生、そして会津若松市全てに利点がある。企業は、人間関係も深まる環境で、信頼性の高い IT・データサイエンス研修が受けられる。会津大学学生は、一般の学生アルバイトよりはるかに高額な所得を得ることになる。そして、会津若松市は観光により得ている交流人口ではなく、滞在し、街で学んだ数多くの関係人口を持つことになるのである。

【本文】

第一章 交流人口の増加から関係人口の増加を目指して

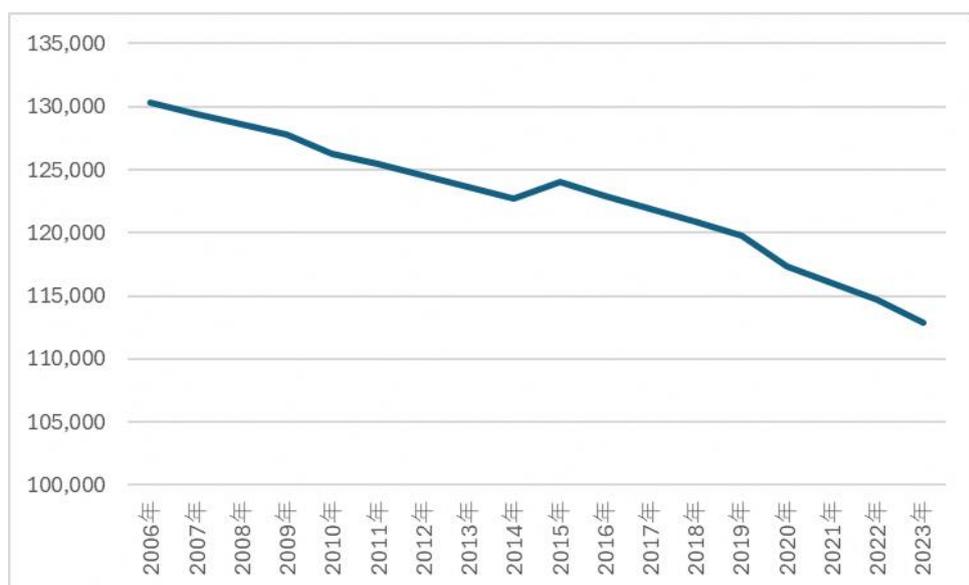


図 1-1 会津若松市の人口（河東町合併以降）

<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>

会津若松市を含む全国で若者の減少、そして総人口の減少が起こっている。1人の女性が一生の間に生む子供の数を示す合計特殊出生率は、2023年、ついに史上最低の1.20を刻んだ。出生数は減少の一途である。そもそも、全国47都道府県で人口増加率がプラスなのは、東京、沖縄ぐらいのものである。これからも分かるように、どの都道府県にとっても、若者を得ることは、今も難しく、今後さらに難しくなる。会津若松市の人口は減少傾向にある。しかし、ゼロサムどころか、マイナスサムである日本の総人口の下、定住人口を増やすのはレッドオーシャンにおける戦いよりも厳しい。

我々が目指すべきは、観光で訪れるに過ぎない交流人口を超える、関係人口の増加である。若者を他県から移住させ、定住させることはどの都市においても難しい。近い都市もライバルになり、減少トレンドが続く若者の奪い合いになろう。市で仕事を作って若者を定住させるということは現実的ではないかもしれない。そこで我々が提案するのは、観光での交流しか持たないであろう若者に、ある程度の期間会津若松市に来てもらい、関係を持ってもらう機会を作ろうという

ことである。

交流人口から関係人口への転換。地域を観光で訪れ、地域に関わることなく去る交流人口に止まらず、地域と流動的に関わる関係人口を増やす必要がある。この二つの最も大きな違いは地域における人的な関わりの深さだ。交流人口が地域社会そのものに必ずしも愛着を持たないのに対し、関係人口は地域社会への愛着をも持つ。

地域を訪れ、お金を落としてくれる交流人口のみを拡大するだけならば、地域の観光資源の魅力をアピールし、観光客を集める施策を打つだけでもよいかもしれない。しかし、地域社会との人的関係を持つ関係人口を増やすには工夫が必要であろう。

コロナ以降人気の出ているテレワークを受け入れる体制を整えるのは一つの方法かもしれない。これは、関係人口を越え、半定住人口と呼べるかもしれないが、定期的な出勤が必ずしもなくなるわけではないようであり、東京からの地の利がいいとは必ずしも言えない会津若松市には厳しいところもあるかもしれない。

ワーケーションも一つのアイデアであろう。しかし、十分に長い滞在をしてもらえるかどうかも疑問であり、温泉地を中心とした観光地間の戦いも激しいようである。会津若松でなければならぬという優位性にも欠けるところがあるかもしれない。選択肢が多いだけにリピーターの確保にも限界がある

交流人口に関しては、会津若松市は強力な観光資源を持っていると考えられる。国内唯一の赤瓦の天守、鶴ヶ城や、白虎隊記念館、会津東山温泉など全国的に有名なものが揃っている。また、日本酒や赤べこなどの特産品も認知度があり、人気となっている。これらから、交流人口だけを増やすことは現実的であると考え。すでに地域の魅力があり、なおかつそれが全国的に知られているとすると、交流人口を拡大する要素は満たしている。ただし、一回は訪れることがあったとしても、あるいは一泊程度はしてもらえたとしても、観光資源だけで地域社会に愛着をもった人間関係を築くのは厳しい。

関係人口の増加には、地域の人々の関わりが重要となる。他の地域の人たちでも、会津若松市の農業やビジネスとの商取引を持ち、さらには市の計画などに関わりを持てば、地域社会に愛着を持ち、地域を応援したいという気持ちも生まれるかもしれない。こういった関係人口は、住んでいる場所とは違う会津若松と繋がり、これからの会津若松の担い手として重要になろう。ただし、このような手段によって得られる関係人口の数には限界がある。

地域活性化の推進で将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき「まち・ひと・しごと創生基本方針 2016」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が作られている。それは、地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくり、多様な人材の流れを力にすることを目標としている。

我々は、交流人口を越えた関係人口を増やすために、企業に向けた研修プログラムの構築を提案する。若者に会津若松との関わりを持ってもらうためには、観光客として訪れてもらうだけでなく、会津若松の人々と密接な関係を持たせていく取り組みをしていく必要がある。

地方創生、デジタル田園都市国家構想において、地方大学・産業創生は大きな目標とされている。会津大学は会津若松市にとって大きな優位性であり、会津大学を巻き込んで、社員研修プログラムを構築し、新たな人を呼び込みたい。こういった企業との関係構築は、新たな価値創造も生むことになろう。

第二章 提案プログラムの内容

～会津若松の観光力と会津大学の IT・データサイエンス力を活かした研修プログラム

会津若松市でコーディネートすべき研修プログラムは、実際に営利企業が提供している研修プログラムを参考にすることで実現性を確認することができる。まず一つの例として、web 上に掲げられた某企業が提供している研修プログラムの概要を紹介する。

日時:

• **平日3日間コース: 2024年12月17日(火), 18日(水), 19日(木)**

[お申し込み\(クレジットカード\)](#)

[お申し込み\(銀行振込\)](#)

請求書払いをご希望の方は、銀行振込の方からお申し込みください。

主催: Exploratory, Inc.

会場: 東京 丸の内

受講定員: 25名(最小催行予定数10名)

受講料(税別): 247,000円

(教材費・1年分のExploratory Business版使用ライセンス込み)

3名以上まとめてお申込みの場合にはグループ割引があります。詳しくは下記お問い合わせ先までご連絡ください。

学生の方には学生割引(50% OFF)があります。詳しくは下記お問い合わせ先までご連絡ください。

受付締め切り: **2024年12月3日**(定員になり次第、受付を終了いたします)

図 2-1 料金、最小催行予定数と受講定員

出典：<https://exploratory.io/training-jp>

(2024年10月17日確認)

1日目
9:00 - 12:00
データの基礎
<ul style="list-style-type: none">○ データサイエンスとは何か○ データタイプと性質○ 集計データの可視化○ 分散データの可視化
13:00 - 16:00
統計の基礎, 統計推論
<ul style="list-style-type: none">○ ばらつきの指標と可視化○ 確率○ 確率分布○ 中心極限定理○ 信頼区間○ 仮説検定
16:00 - 17:00
エキササイズ
<ul style="list-style-type: none">○ 売上と返品に関するデータの探索的データ分析○ 売上と返品に関する差の推定と検証

図 2-2 初日のタイムテーブル

出典：<https://exploratory.io/training-jp>

(2024年10月17日確認)

2日目

9:00 - 12:00

機械学習/統計モデリング - パート 1

- 相関を使った分析
- 線形回帰モデルを使った分析
- 機械学習101 - 統計モデル/機械学習モデルの紹介 (ビデオ)

13:00 - 16:00

機械学習/統計モデリング - パート 2

- ロジスティック回帰モデルを使った分析
- 決定木の紹介
- ランダムフォレストを使った分析
- XGBoostを使った分析 (ビデオ)

16:00 - 17:00

エキササイズ

- 不動産会社での事業担当者として、ある地域の物件の価格がどのように決まっているのかを分析する。

図 2-3 2 日目のタイムテーブル

出典 : <https://exploratory.io/training-jp>

(2024年10月17日確認)

3日目

9:00 - 12:00

機械学習/統計モデリング - パート 3

- クラスタリングを使った分析
- 時系列データ分析 - フォーキャスト(予測) - 売上、需要、ウェブページへのアクセスの予測

13:00 - 15:00

- 予測モデルの検証と予測
- データの加工の基礎
- シグナル & ノイズ - XmRチャート

15:00 - 17:00

エキササイズ

- ある会社で新しい商品の新規開発を担当しているが、この商品の売上を最大化させるためには今後どのような顧客にフォーカスすべきか、予測モデルを使って調べる。
- 自転車の貸し出しサービスを運営しているが、適切な数の自転車とサービススタッフを配備するために、需要予測を行う。
- あるサブスクリプション型ビジネスにおいて、自分たちの施策がコンバージョン率に効果があったかを調べる。

図 2-4 3日目のタイムテーブル

出典：<https://exploratory.io/training-jp>

(2024年10月17日確認)

上に示した図 2-1～図 2-4 は、実際に某営利企業が開催しているデータサイエンス、分析の研修の費用とタイムテーブルである。

まずは、顧客が支払う研修費用に注目しよう。図 2-1 にあるように、この研修プログラムは 1 人あたり、25 万円程度かかり、20 人の社員研修を行おうとすると、25 (万円) × 20 (人) で約 500 万円支払うことになる。当該企業が運営するパッケージソフト 1 年分の利用権 (\$79/月 × 12 月 ≒

14万円¹⁾ほどが付いてくるようだが、そのパッケージソフトの機能は、文系ゼミにおいて使われる無料ソフトRを大きく超えるものではないようである。(ちなみに、図2-5の左の本の第2著者は、当時大学院生だったゼミの先輩。)

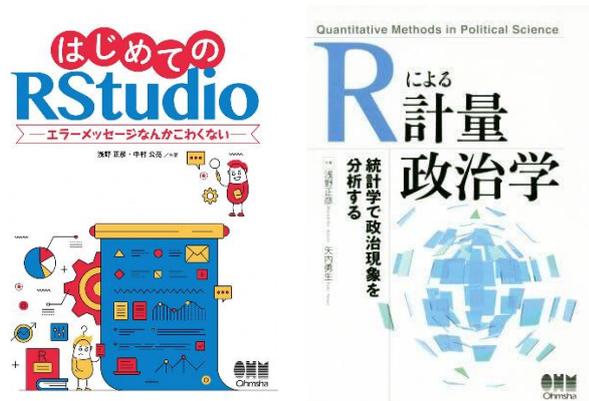


図2-5 和田ゼミ2年使用教科書

このような20人の社員の3日間の研修に対し、500万円を支払う企業があるということを前提に、議論を進めよう。

次に図2-2から図2-4に示されたタイムテーブルの研修内容に関してある。図2-2にある初日の研修内容は、大学の一般教養で学ぶ(図2-6参照)程度のものである。また、図2-3に示された2日目の前半までは、我々文系学生ですら学ぶ程度のものである。(図2-7参照)

第1回 ガイダンス・データとは	第1回 ガイダンス
第2回 時系列データ	第2回 正規分布(前期の復習+ α)
第3回 分布の形	第3回 正規分布(応用問題)
第4回 分布の中心	第4回 母集団と標本
第5回 分布の散らばり	第5回 標本平均①標本平均の分布
第6回 中心と散らばりの応用	第6回 標本平均②大数の法則
第7回 2つのデータの関係(量的データ)	第7回 推定①母平均の推定
第8回 2つのデータの関係(質的データ)	第8回 推定②母比率の推定
第9回 確率変数と確率分布、確率変数の期待値と分散	第9回 仮説検定①仮説検定の手順
第10回 確率変数の変換、確率変数の和と期待値	第10回 仮説検定②さまざまな対立仮説
第11回 独立な確率変数と期待値・分散	第11回 回帰分析①計算
第12回 二項分布	第12回 回帰分析②評価(符号_決定係数)
第13回 正規分布	第13回 回帰分析③評価(t値_p値)
第14回 標準正規分布	第14回 多変量解析
第15回 全体のまとめ	第15回 全体のまとめ
*変更される場合があります。	*変更されることがあります。

図2-6 2024年度横浜市立大学共通教養「ビジネス統計Ⅰa」「ビジネス統計Ⅱa」シラバス

¹ <https://ja.exploratory.io/pricing>

第1回	ガイダンス	1. オリエンテーション(重回帰分析の復習/学習環境の整え方)
第2回	統計の基礎	2. 分散不均一(1)
第3回	統計解析ソフトによる処理	3. 分散不均一(2)
第4回	統計解析ソフトによる処理(2)	4. 系列相関(1)
第5回	回帰分析(1)	5. 系列相関(2)
第6回	回帰分析(2)	6. 操作変数法(1)
第7回	回帰分析(3)	7. 操作変数法(2)
第8回	回帰分析(4)	8. パネル分析(1)
第9回	回帰分析(5)	9. パネル分析(2)
第10回	回帰分析(6)	10. ロジットモデルとプロビットモデル(1)
第11回	データの入手と加工	11. ロジットモデルとプロビットモデル(2)
第12回	分析レポートのまとめ方	12. 非線形モデル
第13回	仮説検定(1)	13. データ収集と加工の実践(1)
第14回	仮説検定(2)	14. データ収集と加工の実践(2)
第15回	仮説検定(3)	15. 授業の総括(レポート課題作成もしくは期末試験)

図 2-7 2024 年度横浜市立大学国際商学部「計量経済学 I」「計量経済学 II」シラバス

実際に、横浜市立大学に在籍していた我々の先輩は学生時代に神奈川新聞の統計講座の社内研修(全 15 回)の講師として雇われていたという経験がある²。したがって、データサイエンスを専門にしている会津大学の学生ならば、この三日間の内容を教えることは容易であろう。

以上の確認を踏まえた上で、我々が提案する研修プログラムの費用の積算を行う。

我々が提案する研修プログラムでは、講師に会津大学学生を迎える。一日 3 万円、3 日で 9 万円という謝金を設定する。この金額で応募しない学生はいないであろう。個別指導を売りにする塾並みに、研修参加者 2 人に対して 1 人の学生講師を迎えたとしても人件費は 90 万円である。

研修会場は、会津若松市が準備することができよう。レンタルスペースの使用料は、3 日で 3~4 万円、会津若松市が関われば、より安くする工夫もできるのではなかろうか。

そして、この研修プログラムには、上記の営利企業が与えることができない、会津若松市の旅館という魅力的な要素を加えることができる。ネット上から得た情報によると、20 名 3 泊で 60 万円から 80 万円であろうか。このような優良団体顧客であるから、若干のディスカウントも期待したい。

上記の営利企業の研修と違い、我々の研修プログラムでは交通費がかかってしまう。東京から往復 2 万円とすると、2 万円×20 名で 40 万円といったところだろうか。

これらを合計すると、我々が企画する研修プログラムは、贅沢に見積もっても 200 万円以内で実現可能である。

² <https://sites.google.com/site/nakamuraycu/profile>

さらに、会津若松市および会津大学の信用を持ってすれば、厚生労働省の人材開発支援助成金の制度を利用することもできるかもしれない。厚生労働省の人材開発助成金は、研修費用に対する「経費助成」と受講中の賃金に対する「賃金助成」があり、企業にとっての研修費用は現在贅沢に見積もった 200 万円からさらに安く抑えることができる。

会津若松市には東山温泉をはじめとする魅力的な旅館に加え、全国的にも有名な地酒が存在している。社員研修にはスキルの向上という目的があるがあるが、社員同士が寝食を共にし、会津のお酒で仲を深めることができるという副産物もついてくる。我々が企画する研修プログラムは、会津大学が保証するであろう信頼のある講義を、営利企業が行うそれよりもはるかに安く提供しつつ、会津若松のお酒や温泉とともに、教育・修練の伝統を持つ会津若松を第 2 の学び舎に持つ関連人口の増加が期待できるのである。

第三章 会津若松市側の強みと利点

このような研修プログラムを企画する供給側たる会津若松市には強みを整理しよう。

1. 研修の質の担保

会津若松市が中心となって企画することによって研修の質が担保される。一般企業ではなく行政が企画するため、信頼をより得やすい。そのためビジネスをするのにおいて難易度の高い初動から顧客を獲得しやすい。

2. 講師の信頼性

会津大学がその質を保証するであろう学生から講師を選定するため、講師の信頼性がその経歴にすら不安を感じる講師を雇うよりも高いと考えられる。世間には多くの個人事業主の外部講師がいる。その中には一定数信頼性の低い、質の悪い講師がいる可能性がある。会津大学の優秀な学生に講師を依頼した場合、このリスクは低く、会津若松市側も講師の信頼性を見極める手間も省けるようになる。

3. 講師人件費

今回、この研修プログラムの講師費用を 1 日 3 万円、3 日で 9 万円と設定した。会津若松市の大卒初任給は 207,100 円とされている³。大学生にとってこの賃金が破格であることは間違いない。そのためこの 9 万円という数字に学生たちは喰いついてくるだろう。この研修プログラムによって学生たちは市が提供する安全性が確保された仕事で高給で受けることができるわけである。

次に、会津若松市にとっての利点を整理していこう。

³ <https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2015051000013/>

1. 市内のつながりの強化

この企画の隠れた目的は、会津若松市内のネットワーク強化である。この研修プログラムを実行するのにおいて市内での連携は必須である。公的な応援も期待したい研修を行う会場、宿泊施設、講師を担ってもらおう会津大学が、一つの企画の下に、会津若松市との繋がりがよりいっそう強くなると考えている。特に会津大学と会津若松市の間でのネットワークが強まることは市にとって非常に有益なのではないだろうか。会津大学卒業生の進路実績から会津若松市への就職が少ないことがわかる。会津大学の優秀な学生と繋がりを持つことで会津若松市に就職する学生が増える可能性がある。

2. 地元の若者への雇用機会

会津大学の学生が講師として研修に参加することで、地域の若者に対する雇用の機会が増える。地域内の大学生に実際の雇用機会を与えることで、彼らが地元でのキャリアを形成する手助けとなり、これにより、地域の人材が地域に留まるようになり、長期的な地域の活性化が期待される。

3. 教育機関と企業界とのつながりの強化

会津大学との連携が深まることで、地域の教育機関と企業界とのつながりが強化される。これにより、地域全体の IT 教育の実践性も向上し、地元の学生たちが企業のニーズに合ったスキルを持つ人材へと成長する可能性が高まる。また、地域内でのイノベーション促進や新技術の開発に寄与することも期待できる。

4. 地元 IT 業界の振興

IT 研修プログラムを通じて、全国から企業の参加者が集まることは、会津若松市の IT 業界の振興にもつながる。地区内での IT 関連のイベントやセミナーが増えることで、地域の IT 企業の認知度が向上し、将来的な投資誘致や新たな企業の進出の可能性が高まる。こうして会津若松市に新たな IT 企業が参入することで、会津大学の学生に雇用の機会が提供され会津市内の若者の流出が減少し、また市外に行った若者の出戻りの可能性も考えられる。

5. 地域経済の活性化

企業向けの IT 研修プログラムは、参加企業が会津若松市を訪れることで、宿泊施設、飲食店、観光地などの地域経済にも直接的な恩恵をもたらす。参加者が市内で消費を行うことで、地域の経済循環が促進され、地域の活性化につながる。特に観光業やサービス業が成長することで、地元の雇用機会が創出される可能性がある。このような雇用機会が増加することで地元市民以外にも会津若松市への流入も見込め、人口増加につながる可能性も増える。

6. 地域振興の持続性

この取り組みは、地域振興の持続性にも寄与する。地元の企業や教育機関との協力を通じて、地域の特性を生かしたプログラムを展開することができ、外部からの資源の流入だけでなく、地域内での人材育成や経済循環を促進することが可能になる。

7. 地域社会の強化

研修プログラムを通じて、会津若松市の歴史や文化、風土を参加者に直接体験してもらうこともできよう。市民や地域の資源を活用する機会が増える。例えば、地元の職人との交流や伝統文化の体験プログラムなどを組み込むことで、地域ならではの価値を発信することができよう。これにより、地域の文化が評価され、守られていくことにもつながる。

8. 地域ブランドの向上

企業との連携による研修プログラムを通じて、会津若松市の地域ブランドが向上することが期待される。企業が研修を行う場所として会津若松市を選ぶことで、地域の魅力を外部に伝えるきっかけとなり、観光資源や文化資源のプロモーションにもつながる可能性がある。これにより、将来的には観光客の増加が見込まれ、地域経済のさらなる活性化が見込める。

9. 会津若松市の PR 活動の機会

企業向けに IT 研修を行うことは、会津若松市が持つさまざまな資源や魅力を PR する好機ともなる。地域のイベントやプロモーション活動を通じて、メディアや参加企業に対して会津若松市をアピールできる場となり、さらなる観光やビジネスの誘致につながる。

以上のような利点が会津若松市側に見込める。このような利点により、会津若松市の知名度の向上、地域経済の活性化に繋がり、行政の資金が潤うことで、社会保障、教育の手当に分配することもできる。社会保障の充実、教育の強力な支援は市としての魅力に繋がり、人口の増加も見込めるかもしれない。

第四章 研修受講側企業の利点

会津若松市の若年層の関係人口を増やすための、会津大学の学生を活用した IT 研修の実施は、地域経済の活性化、社会生活の向上に寄与する有効な施策となる。そして、この研修プログラムに参加する企業にとってもいくつかの利点が考えられる。

1. 社員の IT・データサイエンス力の向上

もちろん、社員の IT・データサイエンス力の向上が挙げられる。会津若松市はスマートシティを進めている市であり、さらには IT・データサイエンスに秀でた会津大学を抱えている市である。そのため、会津若松には最新のデジタル技術を教授する能力が備わっており、さらには稽古堂、日新館を始めとした教育・修練に重きを置く伝統がある。このような環境下で社員に IT データサイエンスの研修を積ませることは、能力の向上に大きく貢献する。

2. 信頼性の高い講師陣による研修

信頼性の高い講師陣による研修を受けることができるのは大きな利点である。会津大学は IT・データサイエンス分野に特化しており、世間からの評価も高い。この分野に秀でた学生が高度な知識を提供することで、企業にとって信頼性の高い研修を受けることができる。特に、最新の技

術トレンドに即した内容を学べる点は、他の研修プログラムとの差別化要因となろう。

3. 廉価で質の高い研修

廉価で質の高い IT・データサイエンス研修を受けることができるのは最大の利点かもしれない。会津大学の学生を講師として活用することにより、企業は通常の研修相場よりも廉価で質の高い IT・データサイエンス研修を受けることができる。学生にとっては貴重な実務経験を積む機会となり、企業側も研修費用を抑えつつ、効果的な教育を受けることができる。

また会津若松市、会津大学側が適用条件を満たすことで、政府から人材開発助成金を受け取ることができよう。これは厚生労働省が IT・データサイエンス研修などの人事育成に励む企業に対して助成金を出すという制度であるが、この制度を活用することで企業はより安く研修を実施することができる。

4. 学生との交流

研修を通じて学生との交流が促進される。参加企業の社内の雰囲気や文化を直接伝えることができ、将来的な採用活動においても有利に働く可能性がある。特に、若い人材が企業の魅力を感じることで、より多くの優秀な人材を採用できる機会が生まれる。

5. リラックスできる環境

研修プログラムの一環で、豊かな自然、会津若松が誇る日本酒や料理、そして歴史深い温泉を楽しむことができるのも特筆すべき点である。これにより、研修自体の満足度が向上し、参加する企業がよりリラックスした状態で学習できる環境が整う。企業の研修として、学びと楽しさの両方を提供することが、参加者の記憶に残る経験となり、社員のモチベーション向上にも寄与する。

6. 社員同士の親睦

IT・データサイエンス研修プログラムは社員同士での親睦を深める機会となる。研修プログラムには宿泊が含まれるため、同じ環境下で食事、入浴、そして同じ部屋で寝泊まりすることで参加する社員の仲はより一層深まるに違いない。

7. 会津地域との交流

会津地域とのネットワーク構築が可能になる点も重要である。企業が地域と関わりを持つことで、地元の文化や産業に対する理解が深まり、地域貢献につながる。地域とのつながりを強化することで、社会的責任を果たすことになり企業のブランドイメージ向上にも寄与する。

以上のように、会津若松が中心となって企画するに IT・データサイエンス研修プログラムには、信頼性、廉価で精良、学生との交流、社員の親睦、地域の魅力、そして企業のブランドイメージの向上を享受できる点など、企業にとって多くの利点を確認できる。

まとめ

これまで述べてきたように、我々は会津若松市に若者を増やすために、定住人口や交流人口を増やすというよりも、関係人口を増やすことで会津若松市と若者の関係を深めようと考えてきた。それは、全国的に若者の減少傾向が続いている中、会津若松市だけが若者の定住人口を増加させることは困難であるからである。よって、関係人口を増やし、会津若松市と若者の関係を深めることで、直接的ではないが、間接的に会津に若者を増加させようと考えた。

関係人口を増加させるために考えたことが、会津若松市が中心となって開催する IT・データサイエンス研修である。会津若松市の観光力と、IT・データに強い会津大学の学生を生かし、会津若松で研修を受けてもらい、会津の土地、人との関わりをつくってもらおう。それによって、会津という町が、常に活力ある IT 業界やそこに集う若者たちとの関わりを持ち、IT 業界の流れについていくこと、さらに流れを作っていくことが可能になる。これは、スマートシティを目指す会津若松にとって、追い風になるに違いない。繰り返すが、企業側にとってもこの研修プランは魅力的である。やはり、一番の魅力は格安で社員の IT とデータサイエンス能力の向上を期待できることである。これは、会津若松市が、会津大学という IT とデータサイエンスに強い大学を持ち、IT 企業が多く集まり、そして観光力があることという全国的に希少な場所であるからである。他の都市には簡単には揃わない条件がそろっている会津で、企業研修を開催しない手はない。

また、副次的ではあるが、企業側は社員の親睦を深める機会を提供することができ、社内のコミュニケーション力向上が業績を伸ばすことがあるかもしれない。会津若松市への研修旅行が企業の恒例イベントとなり、その評価が高いものとなれば、IT に積極的な就活生を会津若松市の関係企業となる研修参加企業に若者を呼び込む一つの鍵カギにもなり得る。

全国的に若者が減少する中、会津若松市に若者を定住させることは非常に困難なことである。したがって、今回我々は、会津若松市との関係人口を増やすことを増加させることはできるのではないかと考え、IT とデータサイエンス研修というものを提案した。会津大学という IT とデータサイエンスに強いブランド力と会津の観光力をメインに生かしたこの研修プランで会津若松市と若者の繋がりを強固なものにしていきたい。